

PAT-NO: JP403114415A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 03114415 A
TITLE: FUNERIAL METHOD AND DEVICE THEREFOR
PUBN-DATE: May 15, 1991

INVENTOR-INFORMATION:

NAME **COUNTRY**
MOTOKAWA, TEIICHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME **COUNTRY**
MOTOKAWA TEIICHI N/A

APPL-NO: JP01252096
APPL-DATE: September 29, 1989

INT-CL (IPC): A47G033/02 , A47G033/00 , A61G017/08

ABSTRACT:

PURPOSE: To worship as a Buddhist mortuary tablet or a grave, by a method wherein a part of a person's ashes is stowed in a ashes-holding case, and a heat-resisting Buddhist image is set in a household Buddhist altar with the ashes-holding case.

CONSTITUTION: An altar pedestal 21 for supporting a transparent body 3 with a heat-resisting property is formed on the part of a basic seat 20 in an altar main body 2. A cavity is made in the altar pedestal 21 and, if necessary, in the part of the basic seat 20, and thus an ashes- holding case 22 is formed. A Buddhist image 1 is integrally formed with a pedestal 10 for the Buddhist image, and an engaging part 11 is projected on the pedestal 10. A Buddhist image-supporting part is formed in projecting-form on a conical mounting-part 30 at both sides under the transparent body 3, and the pedestal 10 is supported and stably held in the transparent body 3. The Buddhist image 1 is formed of a heat-resisting metal or a high class of fire-resisting material, and its surface is coated with a heat-resisting material and it is held in the transparent body 3. The transparent body 3 is also made in the state of a vacuum and is sealed, and can be cremated with the remains. That is to say, since the Buddhist image 1 is cremated with the remains, the impression of its protecting the deceased is strongly applied. After the transparent body 3 is broken, the Buddhist image 1 is reset in the altar 2. The important parts of the remains are stowed in the ashes-holding case 22.

COPYRIGHT: (C)1991,JPO&Japio

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平3-114415

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)5月15日

A 47 G 33/02
33/00
A 61 G 17/08

F 7137-3B
R 7137-3B
J 8718-4C

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全5頁)

⑮ 発明の名称 葬祭方法およびその用具

⑯ 特 願 平1-252096

⑰ 出 願 平1(1989)9月29日

⑱ 発 明 者 本 川 遑 一 神奈川県川崎市麻生区王禅寺1910番3
⑲ 出 願 人 本 川 遑 一 神奈川県川崎市麻生区王禅寺1910番3
⑳ 代 理 人 弁理士 白川 一一

明 細 書

1. 発明の名称 葬祭方法およびその用具

2. 特許請求の範囲

1. 耐熱性透視部体内に真空密封した耐熱仏像を装着するようにした厨子台座内に遺骨収納室を形成したものと準備して念持仏とし、前記耐熱仏像を耐熱性透視部体に密封されたまま遺体と共に火葬してから遺骨の一部を上記した遺骨収納室に収納し、前記耐熱性透視部体内から上記耐熱仏像を取出して遺骨収納室を有する厨子内にセットし、位牌または墓として祭祀することを特徴とする葬祭方法。

2. 厨子本体における基座部分に耐熱性透視部体を支持する厨子台座を形成し、該厨子台座内を空洞として遺骨収納室とすると共に耐熱材で形成された仏像を収容した前記耐熱性透視部体の底部に錐形装着部を形成し、前記仏像に形成された仏像台座に係合部を設け、しかも上記厨子台座に前記した仏像台座の係合部と嵌脱可能な蓋部体を装脱し得るように設けたことを特徴

とした葬祭用具。

3. 耐熱性透視部体における錐形装着部の上方に仏像支持部を内側に突出させて形成し、該仏像支持部において耐熱クッション材を介し仏像台座を支持させた請求項2に記載の葬祭用具。

3. 発明の詳細な説明

「発明の目的」

本発明は葬祭方法およびその用具の創案に係り、念持仏として好ましい利用をなし得ると共に位牌ないし墓として永代供養せしめ、あるいは故人との連繫を長期に亘って維持するに適した葬祭方法およびその用具を提供しようとするものである。

(産業上の利用分野)

仏壇や祭壇に納め、あるいは携行せしめて常時礼拝するに適すると共に遺骨の一部を収納した位牌ないし墓として多年代に亘って礼拝、使用するに適した厨子。

(従来の技術)

厨子は古来仏教などにおいて僧侶は勿論、武将その他において信仰する仏像を収納し、これを携

行ないし本人の身近に置いて仏壇内などに祀り、現世、来世の安泰を念ずるために広く採用されて来た。

又人世の終末を迎えた場合には遺体を火葬に付することが一般的であり、その際には位牌を作り、これを仏壇などに設置し、故人の冥福を祈念すると共に残された家族等による供養をなすことが行われている。

更に墓は我々の最終的な慰霊の場として、少くとも各家庭に不可欠の設備であり、即ち遺骨を納め四季折々にお参りすることが行われている。

(発明が解決しようとする課題)

仏像を納め常に携行ないし身近かに置いて合掌する厨子は我々に宗教心を催さしめ、平安を与えるものとして好ましい祭祀具と言えるが、各人一代限りとなることが多い。

位牌は故人に代って礼拝されるものとして作成されるが、納骨またはその後の適当な期間使用された後は寺院などで焼却されるのが普通であり、これは故人とは別に作成されたものである。

故人の遺骨を収納する墓は上記したものとは異り、故人遺体の基幹をなしていた遺骨を収容する設備であって、故人に直結するものと言えるが、骨壺を収容する納骨室上に台石、石塔などを設置することとなるからそれなりに大型なものとなり、当然に相当の墓地を必要とする。又この墓地は住宅などとそれなりに離れた地域となるのが普通で、近時の都会地における地価高騰などからして次第に遠隔地となり、数十km、数百kmも離れて設置しなければならず、このため墓参は少くとも半日、場合によっては2～3日も必要となり、時間的、費用的に著しい負担を強いられることが多い。更に敬けんな心情を催さしめるには石仏や塔籠なども必要となりコスト的に不利であると共に貴重な土地が墓地として失われ、事実上墓地の確保が困難となっていることは周知の通りであって、墓地行政、霊園行政が論ぜられている。

「発明の構成」

(課題を解決するための手段)

本発明は上記したような実情に鑑み検討を重ね

て創案されたものであって、生存中における念持仏を故人の火葬を経て位牌ないし墓としての機能を得しめるようにしたもので、以下の如くである。

1. 耐熱性透視部体内に真空密封した耐熱仏像を装着するようにした厨子台座内に遺骨収納室を形成したものであるとして準備して念持仏とし、前記耐熱仏像を耐熱性透視部体に密封されたままで遺体と共に火葬してから遺骨の一部を上記した遺骨収納室に収納し、前記耐熱性透視部体内から上記耐熱仏像を取出して遺骨収納室を有する厨子内にセットし、位牌または墓として祭祀することを特徴とする葬祭方法。

2. 厨子本体における基座部分に耐熱性透視部体を支持する厨子台座を形成し、該厨子台座内を空洞として遺骨収納室とすると共に耐熱材で形成された仏像を収容した前記耐熱性透視部体の底部に錐形装着部を形成し、前記仏像に形成された仏像台座に係合部を設け、しかも上記厨子台座に前記した仏像台座に係合部と嵌脱可能な蓋部体を装脱し得るように設けたことを特徴とした葬祭用具。

(作用)

厨子台座内に遺骨収納室を形成し、遺体と共に耐熱性透視部体に真空密封された耐熱仏像を火葬して得られる遺骨の一部を前記遺骨収納室に収納し且つ耐熱仏像をその耐熱性透視部体から取出して厨子内にセットすることにより、前記仏像を有する厨子が生存中の念持仏であると共に死後における遺体の火葬により耐熱仏像と共に遺骨が厨子内に収容セットされ、生前から死後に亘る一貫した葬祭を好ましい仏像とのコンビネーション条件下において長期に亘り実施せしめる。

蓋部体を取外した状態で厨子本体における基座部分に形成された厨子台座において耐熱性透視部体の底部に形成された錐形装着部を受入れることにより該耐熱性透視部体を支持する。又この耐熱性透視部体を介し該耐熱性透視部体内に収容された仏像を支持せしめる。

前記厨子台座に蓋部体を嵌合することにより前記厨子台座内の空洞部分が遺骨収納室となり、しかもこの蓋部体に仏像台座に係合部を嵌合させて

仏像をセット支持させる。

即ち前記のような耐熱性透視部体内に真空密封された仏像としての全般の高さはそれなりに大であるが、斯うして高さの大きい耐熱性透視部体は遺骨収納室をも利用して厨子内にセットされることによって比較的コンパクトな状態を形成し、しかも遺骨収納室に遺骨の一部を収納した後においては前記した蓋部体上に上記耐熱性透視部体から取出されて高さの短小となった仏像をセットすることにより仏像自体は厨子内において常に略好ましい安定したレベルに設定される。

従って生前における念持仏としての利用状態にあっても比較的コンパクトに厨子自体を形成せしめて、近時における都市生活環境での採用に適し、特に乗用車内などにおいても念持仏として携行、信仰を可能にする。又故人の遺骨を収納した後においては小型な位牌として勿論、墓として使用されることとなり、巨大な墓設備のためのコストや墓場問題を解消するし、常時礼拝することが可能となる。

されているが、このような仏像台座10には係合部11が突設され、又耐熱性透視部体3の下部両側における錐形装着部30上に仏像支持部31、31を内側に向けて突出形成し、これらの仏像支持部31、31上において仏像台座10が支持され、透視部体3内に安定に保持されるもので、この際仏像1の背面ないし仏像台座10の周側ないし底面に石綿などの耐熱性クッション材を介装しておくことができる。

上記したような厨子本体2にはその両側(または一側)に扉24が開閉可能に枢着25されているが、このような扉24の内外面その他には厨子として好ましい図柄28が施されることは図示の通りであり、又そうした扉24の閉塞状態を保持する錠片26などが採用される。

上記したような仏像1は耐熱性の金属または高級耐火物によって成形され、その表面に耐熱めっきその他の被覆が施されて前記透視部体3内に収容されると共に真空状態として密封されていることから、このような仏像1は遺体と共に火葬に付

(実施例)

本発明によるものの具体的な実施態様を添附図面に示すものについて説明すると、本発明による葬祭用具の、生前における念持仏としての利用状態は第1図と第2図に示す如くで、厨子本体2における基座20部分に耐熱性透視部体3を支持する厨子台座21が形成され、該厨子台座21および必要に応じて基座20部分を空洞として遺骨収納室22が形成されている。又耐熱材で形成された仏像1(この仏像としては仏教的な仏像のみならず、キリスト教的な十字架や、神道的な御神体などの何れでもよいことは当然で、本発明においてはこれらを総称し、代表的に仏像という)を収容した前記耐熱性透視部体3の底部には錐形装着部30が形成されて上記したような遺骨収納室22に装着され、この場合においてその装着状態を安定化させるため遺骨収納室22の上部内面の環状の板ばね材23などを取付けておくことが好ましい。

上記した仏像1には仏像台座10が一体に形成

することができ、即ち火葬によっても石英ガラスなどの耐熱性透視部体3が焼損されることなく、又真空条件下にある仏像1ないしその美装被覆が酸化変色せしめられることがない。即ち仏像1は遺体と共に火葬されることによって火葬事においても遺体と共にあって故人を加護する印象を強く与えるが、火葬後においては遺骨と共に透視部体3内の仏像1が変色することなく残存しているから参列者等による遺骨の処理に当ってこのような仏像1が出現することにより大きな感銘を与えることとなるが、本発明にあっては上記のようにして得られる仏像1は透視部体3を適宜に破碎して再び厨子2にセットされる。このため前記した厨子台座21に対し第5図に示すような蓋部体4が用いられ、即ち該蓋部体4は厨子台座21の頂部に装脱可能なものとして別に準備されており、その中央部には仏像1の上記した係合部11と係合する嵌合する孔41が形成されている。

従って上述したような遺骨収納室22に遺骨の枢要部分、例えば喉仏部分や頭骨の一部などを収

容した状態で前記蓋部体4を厨子台座21に施し、次いで前記係合部11を孔41に装着することによって仏像1は蓋部体4を介して再び厨子2内にセットされる。

上記のようにして得られたものは直ちに位牌として利用され、若し戒名などを表示することが必要ならば厨子2内に戒名表示部体を別にセットし得るようにできることは明かである。即ちこのようにして本発明のものは位牌として使用し得るが、又遺骨の一部(特に枢要部)を収納していることから墓として利用し得ることが明かであり、斯くて故人の生前から死後に亘って一貫した祭祀を行わしめ得る。

なお上記のようにして本発明によるものが墓として使用される場合において、遺骨の大部分が残ることとなるが、従来の骨壺に遺骨を収容する場合でも遺骨の全部を採取収容することは稀れで、相当部分は廃棄処分されている。又場合によっては遺骨の全体を粉碎して撒布するような場合すら存し、更には遺骨は最終的には土にかえすことが

好ましいと慨念されていることも周知の如くであって、枢要部を上記のようにして納骨し礼拝するならば結局において不都合性は残らない。好ましいことは上記のようにして本発明のものが墓とされることにより巨大な墓や墓地は不要となり、日常遺族等によって常に礼拝することが可能となるわけで、故人と密着した親近感を以て加護を受けることができる。

具体的な製作例として、前記した耐熱性透視部体3は高さが75mmで、外径が12~18mm程度として石英ガラスにより適切に得ることができ、その中に図示したような係合部11をも含め高さが5~6mm程度の仏像1を適切に収納し、真空密封することができる。仏像1はコバルト合金などを用い、耐熱めっきして1200℃前後のような火葬温度で真空条件下と相俟って変色することがないものとして得られ、上記のようにして得られた透視部体3は厨子2として高さが110~130mm、厨子本体の幅が60~70mm、奥行42~50mm程度のものがよいこととなり、従って仏壇内に

においては固より、乗用車内などを含む適当な場所に殆んど支障なく設定し、携行することができ、念持仏などとして好ましいものと言える。このことは墓として用いられる場合においてより大きなメリットをもたらすことは明白である。しかも仏像1のセット状態は第2図と第3図に示すように厨子2内において殆んど同じであって厨子2と仏像1のセット関係は何れにおいてもバランスの崩れることがない。

「発明の効果」

以上説明したような本発明によるときは、生前、没後を通じて念持仏、位牌、墓としての利用を可能にし、コンパクトでそうした利用を円滑に図らしめると共に低コストで墓地問題などを有効に解決し、又常に身近にあって、本人や遺族などの何れに対しても親近感をもった信仰心を得しめるなどの効果を有するものであるから工業的にその効果の大きい発明である。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の技術的内容を示すものであって、

第1図は本発明によるものの念持仏としての利用状態を示す正面図、第2図はその扉を開いた状態の正面図、第3図はその位牌ないし墓としての利用状態の正面図、第4図はその仏像を取外した状態の部分切欠正面図、第5図は蓋部体の平面図を示すものである。

然してこれらの図面において、1は仏像、2は厨子、3は耐熱性透視部体、4は蓋部体、10は仏像台座、11は係合部、20は基座、21は厨子台座、22は遺骨収納室、23は板ばね材、24は扉、25は枢着部、26は錠片、28は図柄、30は錐形装着部、31は仏像支持部、41は孔を示すものである。

特許出願人 本 川 暹 一

発 明 者 本 川 暹 一

代理人 弁理士 白 川 一 一



